

長万部の

教育コーナー



今、学校では



1学期終了日恒例の夏フェス。今年はフラワーフェスティバルでした。春から種や苗で育てた花を飾り、花をテーマにしたパフォーマンスや装飾で保護者の皆様をご招待しました。

後半のお楽しみタイムでは、年長児が自園の畑で取れた野菜を収穫から出荷まで一手に担い、マーケットを開いてくれました。大根は約50本、珍しいすみれかぶ・さやえんどう・ナス等、ひまわりマーケットは大盛況で見事完売！今年は畑の隣に大きなタライやバケツで稲作にも挑戦。夏



休み明け、穂が出始めています。秋フェスには、収穫したマリア米の新米をお届けできますように。

外国語や外国の文化に触れて

長万部小学校

小学校は、次年度から新学習指導要領が施行され、外国語（英語）の授業が3年生から本格実施になります。本校では、移行期間にあたる昨年度から新学習指導要領に定められた時数を先行実施しています。

担任が授業を行うのに加え、3・4年生には東京理科大学のクーパー先生・ブラウン先生に年6〜7回来校していただく機会を提供しています。5・6年生は、中学校の廣田先生の乗り入れ授業を週一

回行い、少し難しい英語表現を教えていただくとともに、中学校への橋渡しを行っています。年に数回、長万部高校のご協力もいただいています。また、1・2年生は外国語の授業はありませんが、年に2回、森高校の英語助手の先生に母国の文化、英語の歌やゲームなどを紹介していただく授業を続けています。

子どもたちは、こうした授業が大好きで、目を輝かせて取り組んでいます。小学校では異校種連携による外国語の

活動を通じて、興味を広げ、進んで学ぶ児童の育成を目指しています。



こんな制度をご存じですか？

◎就学援助制度とは…

お子さまが、小・中学校に通学するうえで、経済的な理由によりお困りの方に対し、学校給食費・学用品費・修学旅行費などが支給されます。

◎特別支援教育就学奨励費とは…

国の補助に基づき小・中学校の特別支援学級に在籍するお子さまがいる家庭に、奨励費の支給を実施するもので、学校給食費・学用品費・修学旅行費などが支給されます。学用品費の支給には領収書またはレシートの提出が必要となりますので保管しておいてください。（新1年生の準備用学用品も対象となります。）

【お問い合わせ先】

教育委員会事務局
学校教育係
(☎2-2748)



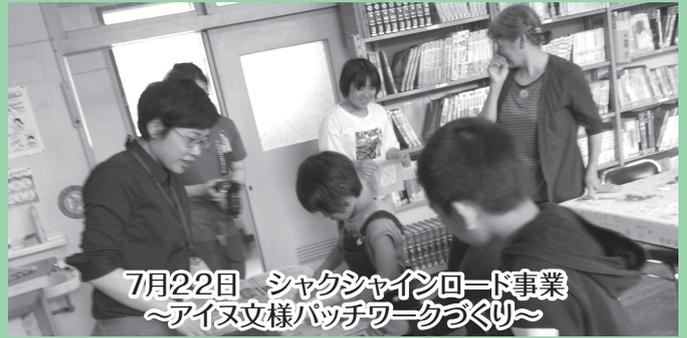
写真で見る 学校の様子

長万部高等学校

静狩小学校



6月6日 1年生宿泊研修
～ボートオリエンテーリングやサイクリングなど、様々な活動を行いました。～



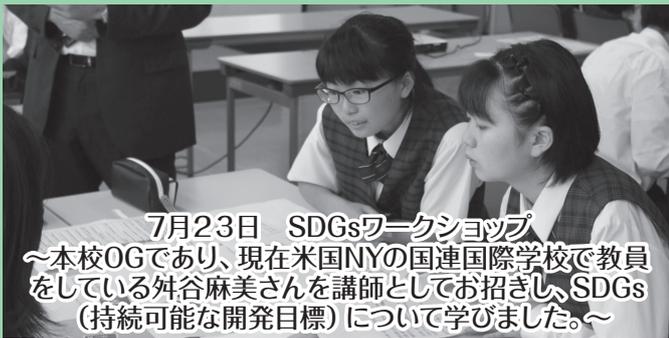
7月22日 シャクシャインロード事業
～アイヌ文様パッチワークづくり～



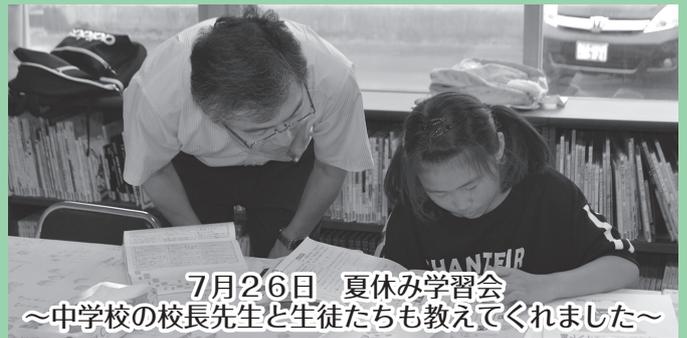
7月14日 第68回長高祭
～全校生徒が一丸となって楽しみました!ご来校して下さった保護者の方々、地域の方々、ありがとうございました。～



7月24日 毎回、内容が変わるクラブ活動
～パフェづくりにチャレンジ～



7月23日 SDGsワークショップ
～本校OGであり、現在米国NYの国連国際学校で教員をしている外谷麻美さんを講師としてお招きし、SDGs(持続可能な開発目標)について学びました。～



7月26日 夏休み学習会
～中学校の校長先生と生徒たちも教えてくれました～



「修学旅行」の今昔

北海道長万部高等学校校長

田邊 禎 明

修学旅行は1958(昭和33年)年に学校の教育活動として位置づけられたのですが、それ以前から様々な形で行われてきました。平成のはじめころからは海外への修学旅行も増えると共に、海外からも日本への修学旅行が行われるようになっていきます。

高校の修学旅行は宿泊研修と見学旅行を指しますが、見学旅行の視点で「修学旅行」を考えてみます。

明治時代(1868～1912 45年)
明治19年「長途遠足」と呼ばれる野外の軍事教練と文化財の見学等が修学旅行のルーツといわれています。40年頃には名所旧跡や産業施設等の訪問見学を主体とするものとなり、現在のモデルとなっていきました。

大正時代(1912～1926 15年)
この時代は、まだ学校に通える子どもも少なく、国家主義的教育が色濃い時代で、軍施設や軍艦等の見学や、中国東北部及び朝鮮半島への修学旅行が行われるようになりました。また、伊勢神宮や橿原神宮等が選ばれることも多く、皇室に連なる敬神思想の育成も当時の修学旅行の目的とされました。

昭和時代(1926～1989 64年)
終戦(昭和20年)、新学制の施行(小・中22年、高23年、大24年)、戦後復興・高度経済成長(30～40年頃)、新幹線開業(39年)、沖縄本土復帰(47年)、青函トンネル開業(63年)等々、まさに激動の時代で「修学旅行」も紆余曲折するのですが、冒頭にあるように昭和33

年に学校の教育活動として位置づけら

れました。

主に京都奈良の仏閣や歴史的建築物、東京タワーや国会議事堂などが見学箇所として定着しました。新幹線開業前は道東や道北からだて京都まで3日を要するため、最長11泊12日間の学校もありましたが、昭和後期には5泊6日や6泊7日が主流となりました。

平成時代(1989～2019 31年)
平成のはじめに高校生数がピークを迎えます。国内の修学旅行は京都や奈良に日本中から集まり飽和状態となり、旅館も複数校でひしめきトラブリング多発。旅館の外ではおかしな勢力争いが起きたり、現地での行方不明者(これを機会に家出や退学?)が出たり。

同時に航空機の団体割引により利用が増え、トラブルや混雑を避ける意味もあり、平和学習のため広島や長崎へ、そして沖縄や海外への修学旅行が増えた時期でもあります。日程も学校週5日制(平成14年以降ほぼ4泊5日となり、地域によっては3泊4日も可能となりました)。

令和時代(2019～)
本校での令和最初の見学旅行は、10月29日から3泊4日の日程で関西方面です。往復航空機利用で宿泊はホテルです。旅館の大部屋を体験できないのは残念ですが、これが令和のスタイルでしょうか？

いずれにせよ最大の目的である日本の歴史と文化に触れる良い研修になることを願っています。